

一橋大学情報基盤センター

一橋大学情報基盤センター 尾方 一郎

1. 概要

本学では、平成 21 年 4 月、情報化統括責任者（C I O）が政策決定から管理運営まで一元的に統括する全学情報化推進体制を整えるべく、従来の総合情報処理センター、学術・図書部情報推進課及びC I OとC I O補佐官からなるC I O室を統合再編し、全学一体的な情報化組織として情報化統括本部を設立した。

設立にあたり「つなぎます、まもります、ささえます」をモットーに掲げた。学術コミュニティをネットワークで結び学術情報資産を共有しつつ、利便性に潜むリスクから情報資産を守り、社会科学の総合大学として教育・研究の世界的拠点形成に取り組む本学の教育・研究活動を支援することを、その任務とするものである。

2. 組織

新体制の構成は、以下に示すとおりである。

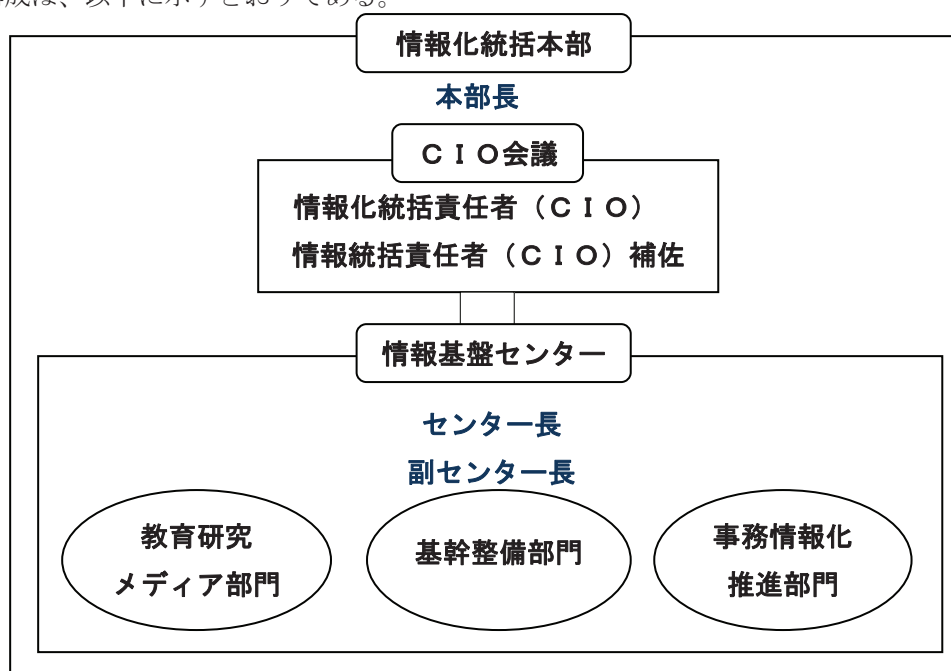


図-1 組織図

従来は全学共同利用施設の総合情報処理センターと事務部門がわかれていたが、新体制では、C I Oを本部長とする情報化統括本部を新設し、この情報化統括本部内に意思決定機関としてのC I O会議、管理運営機関としての「情報基盤センター」を配置した。

C I O会議を構成するC I O補佐は、情報基盤センター長、事務局長、統括本部専任教員、学長が指名する者及びC I O指名の情報システムに関し専門的知見を有する職員からなる。

「情報基盤センター」は、従来の総合情報処理センターに学術・図書部情報推進課から移行した4ポストを加えて拡充改組し、そこに教育研究メディア部門、基幹整備部門、事務情報化推進部門の3部門を立てた。

3. 情報基盤センター

以下、情報基盤センターを構成する3部門と情報担当者連絡会議の役割と現状について紹介する。

3.1. 教育研究メディア部門

情報技術による教育・研究の支援や、メディア開発にあたる。

Webを利用した教育システムである「WebClass」を提供し、学習や授業のサポートを行っている。

情報教育棟には200台のコンピュータを設置し、授業期には8:40から20:00まで授業や研究のためのIT環境として運用している。また、大学院学生によるIT環境の利用相談も行っている。

映像情報室では、AV教室の整備、授業や各種イベントの撮影・編集のほか、授業で用いる映像情報の作成支援、著作権関連処理などを通じて、本学独自の映像コンテンツの作成、蓄積及び配信などを行う。

3.2. 基幹整備部門

3キャンパス26施設を結ぶ本学の基幹ネットワークの構築及び運用管理、基幹ネットワークに接続する学内ネットワークの監視及び運用支援にあたる。現在、第4四半期運用開始に向け、新キャンパスネットワーク構築に取り組んでいる。

また、教室等共有エリアでの持込みPCのネットワーク接続を容易にするため、ユーザ認証接続システムや無線LAN「1284Wireless」を提供している。

全学の利用する基幹システムの企画・提供及び情報教育システムの基幹整備にあたる。オープンソースベースの認証システムや企業提携によるサービス提供（Google Apps）など、様々な効果的手法を取り入れている。今年度後半からは、情報処理・教育システムのリプレイスに向けた仕様策定作業に取り組む予定である。

また、学内における情報システムの導入に関するコンサルティングにもあたる。

3.3. 事務情報化推進部門

事務処理における情報化の推進に関しての企画・立案、連絡調整にあたる。

事務システムのセキュリティ対策、職員の情報スキルアップの支援にあたる。

各業務の担当部局及び本センターの他部門と連携して課題解決を図り、事務システムの最適化、効率化を推進する。

教育職員を含む全職員を対象とするグループウェアや事務用メールシステムの運用管理を担当し、また、今年度からICカード身分証の本格運用に入ったところである。安全安心な事務ネットワークの構築を推進し、事務情報の事務局内での共有化と有効利用を図るべく、現在、事務システム再編の基本方針策定とその一部具体化に取り組んでいる。

3.4. 情報担当者連絡会議

組織図（図-1）には表れないが、情報基盤センターの発足とともに、全学情報基盤の円滑な利用を図るため、情報基盤センター長が主宰する情報担当者連絡会議を設けた。連絡会議は各研究科、研究所、学内共同教育研究施設等及び事務局各部の情報担当者から構成される。意思決定機関ではないが、多岐にわたるネットワークや情報システムの利用実態を把握するために、また、様々な企画を現場の立場で評価し、実効性のあるものにブラッシュアップしていくためにも、同連絡会議の活性化が期待されている。